

令和6年産リンゴを振り返る



販売課
田村 慎平

令和6年産はどんな年

令和6年産のリンゴの集荷数量は、青森県内のJAを合わせて5,196,659箱に達し、前年と比較して96%の集荷量となりました。

記録的な猛暑などの影響を受け、過去10年で最も在庫量が少なかった令和5年産との比較となりますので、引き続き6年産もJA全体での集荷数量は芳しくない状況が続いています。

そのような中で、当JAでは在庫数量が615,591箱に達し、令和5年産と比較して111%となり、他のJAと比べて在庫数を持ち直すことができました。

ただし、2年前の令和4年産と比較すると83%となり、長期的に見れば減収傾向が続く結果となっています。

令和5年の記録的な高温は令和6年の生産に影響を及ぼし、花芽の不足や受粉環境の悪化に伴うカラマツの発生などにより、中心果だけでは着果量を確保できない園地が見受けられました。

降水量は7月に限り平年を上回ったものの、他の月では平年を下回

晩生種総販売金額 30億3740万0315円

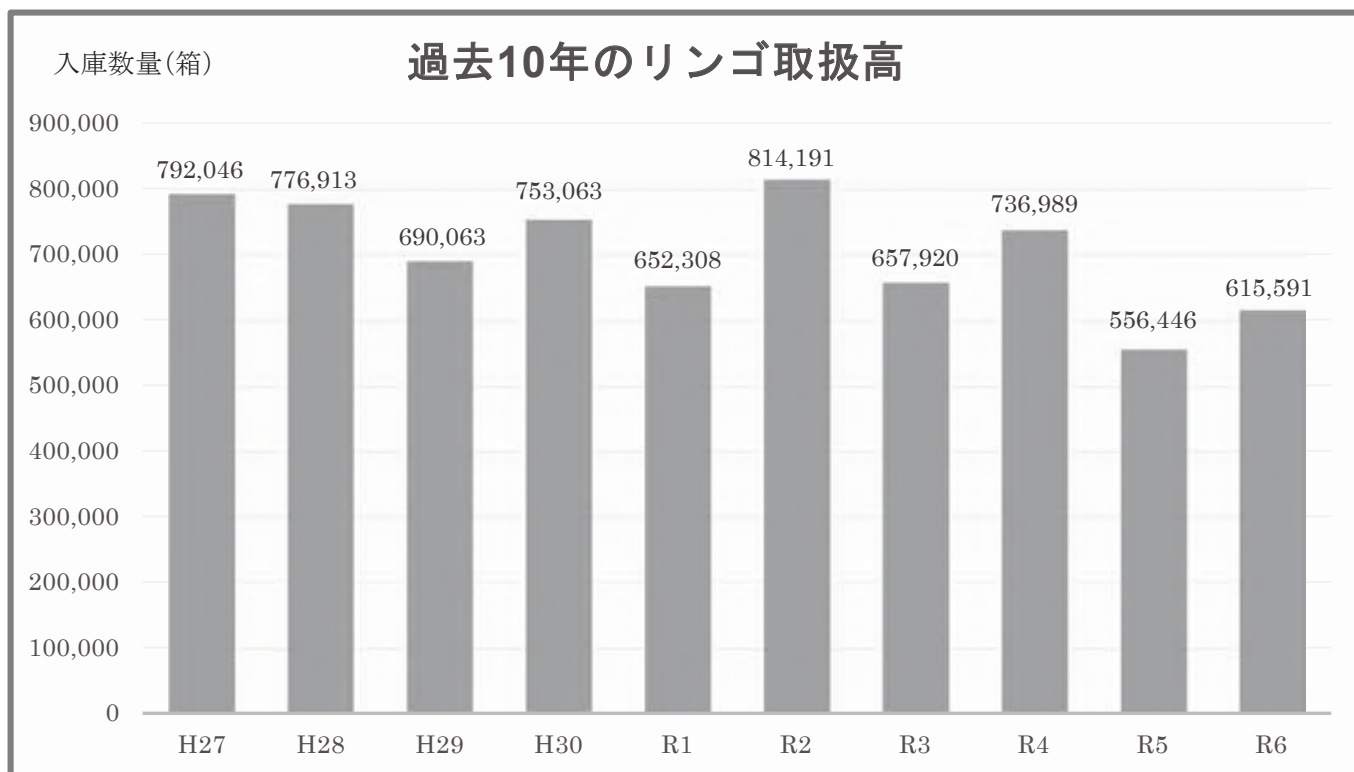


品 種	最高価格(円)	大小込価格(円)
ふ じ	9,669	8,427
サンふじ	8,501	6,878
む つ	13,283	11,562
王 林	5,779	4,709
ジョナG	6,607	5,365
シナノG	5,211	4,146
飛馬ふじ	8,670	7,688



※「晩生種りんご精算時の未収金額と販売金額に100万円以上の差額生じた場合は、8月20日追加精算します。」





る結果となりました。夏の曇りは、前年よりやや和らいだものの、依然として高温が続く、特に1月から5月にかけては前年よりも平均気温が高かったため、花芽形成に大きな影響を与えました。この開花期間中の高温乾燥は、マメコバチが飛ばなかった原因の一つとされています。

その結果、開花・満開・落花はともに約10日程度平年より早まり、開花日は観測史上第4位の早さとなりました。

ふじにおける花さつ結実率は40.4%、中心果結実率は35.6%となり、結実量の低さが際立ちました。開花が早まったことで、初期発育は順調で、当初は肥大化が進みましたが、6月以降は干ばつ傾向となりました。収穫時には果実の大きさは平年よりやや大きい結果となりました。

これらの着果量や果実の肥大は園地によってばらつきが多く、中心果の結実不足により側果で着果量を確保した園地では小玉生産を余儀なくされ、その結果、収量が減少した園地も見受けられました。

早生種・中生種の販売の流れ



5年産のりんごの販売は8月まで続き、高値傾向が終了まで続きました。末端での売価は高いままとなり、荷動きは鈍い状況でスタートしましたが、販売時期の消費地での気温が前年並みに高かったことを受けて、末端の量販店でも売価を下げて早めに売り切ろうとする動きが見られました。

サンつがるの出荷量は豊富だったため、市場では比較的安価で取引され、最終的には前年比90%の単価となりました。

中生種に入ると早生ふじが品薄傾向となり、サンつがるの切上がりが早かったことや、他県産の中生種が着色不良などで出揃わなかったことが影響し、早生ふじが消費地・産地市場ともに価格が高騰したにもかかわらず、引き合いが強い状況となりました。

この時期、全国的に競合するみかんや柿が品不足となり、リンゴは高価格でも多くの人々に求められる状況がサンふじが始まるまで続きました。

晩生種とギフトの傾向

晩生種において、サンふじの6年産の特徴は、平年と比較して着色指数は同程度であり、大きさは全体的に平均して平年を上回り、糖度・酸度・熟度はやや高く、硬度は低い傾向が見られました。つるつるの発生が少なかったことも特徴として挙げられます。大玉傾向で食味の良い高品質なりんごが生産されましたが、他品種に比べて特に品薄傾向があり、蜜果率が低かったため、上位等級品や「みつまるくん」などの付加価値商品が少なく中でギフト需要に応えることとなりました。ギフトの需要自体は例年通り高く、JA相馬村のホームページからのネット通販では売上高が前年比の140%に達し、サイトを訪れた人やそのまま購入した人も年々増加傾向にあります。贈答時期が終わった1月以降は、「ギフトでもらったりんごがとてもおいしかった。どこで購入できますか？」という問い合わせもいただいております。



輸出向けリンゴの動向

一方、輸出向けについては香港向けの品質があまり良くなく、低調なスタートとなりましたが、後続の台湾向けトキは需要が高く好調となり、続くシナノスイート・名月も堅調な取引となりました。前年の中生種の輸出時期には害虫被害が多発しましたが、6年産はコンフューザーRの普及もあり、県全体ではモモシンクイガなどのチョウ目での検査不合格例は少なかったものの、リンゴハダニなどのダニ目での不合格事例が目立ちました。ただし、出荷前の国内における検査での総不合格数は、特に多かった5年産から6年産は平年並みの件数まで回復しています。年末年始の台湾の春節向け輸出も主力のサンふじ・有袋ふじ・金星などが大玉傾向であったため順調な取引となりましたが、6年産は台湾が好調であった反面、香港やベトナムが単価高を背景に引き合いが弱い結果となりました。そのため、年明け以降は輸出の出荷は抑制されましたが、最終的には前年比101%の出荷量となりました。

年明け以降には…

年明け以降の国内販売は、各品種が年明け前から続く数量不足により高価格で推移しましたが、りんごの売り場は終了まで限られたままとなり、消費の鈍化が最後まで続くこととなりました。

反面、例年国内市場向けに出荷される下位等級品が産地市場の高値の影響を受けて特に価格が高騰し、末端消費の停滞から荷動きが緩慢な状態となりました。

売り場が拡大しなかった理由として、3月のいちごや5月以降の輸入果実などの競合品目の流通量が好調であったため、量販店ではそれらの他品目に押されて高価格のりんごの売り場は広がりませんでした。特に、NZ産りんごの入荷量が前年の1.5〜2倍になると見込まれている市場もあり、外国産りんごは年々増加傾向にあります。



ニュージーランド産JAZZリンゴ

6年産の総評とこれから販売に向けて

りんごの販売は夏の高温の影響で数量が不足し、その結果として単価が高くなる傾向が2年連続で続いています。また、12月までは販売が好調であったものの、1月以降は販売が厳しくなるなど、販売時期によって明確な傾向が見られる結果となりました。

この傾向は程度の差はあるものの、7年産以降も続く可能性が高いと考えられます。販売課としては、これまでの慣例にとらわれず、過去2年の傾向を考慮した販売計画を柔軟に策定していくつもりです。



令和7年産 りんご取扱要項 変更点

1, 「葉とらず有袋ふじ」の取扱開始

【取扱要項】

- ① ふじ（着色系統、スタンダード問わない）を対象とする。丸葉、わい化問わない。
- ② 入庫時「葉とらず有袋ふじ」で入庫、精算時期は6月とする。
- ③ 所得向上に向けて支柱入れ、反射シートなど着色管理を実施しましょう。



※当管内の葉とらず栽培は、色を重視した精算となります。

○ 山選果基準

品 種	上 実	クズ実	加 工
葉とらず 有袋ふじ	欠点なし 適 熟 60玉・170g	つるサビ・胴サビ 傷ヤケ・つるワレ 30mm以内	左記以外の規格

○ 製品選果基準

等 級	特 選	特	特 A	加 工
着 色	良 好	やや薄+八形大	特以上	青すぎ
欠 点	な し	な し	小欠点あり	大欠点あり

※着色良好でも八形大の場合は「特」

山選果・製品選果ともに「葉とらずサンふじ」と同様の基準になります。

2, 木箱入庫の取扱

○令和7年産 「木箱入庫」 → 「コンテナ入庫」 へ変更

- ・シナノドルチェ ・メルシー ・ローズパール ・ルビースイート
 - ・もりのかがやき
- （ここ2～3年一定量の入庫があったため）

○令和7年産 「コンテナ入庫」 → 「木箱入庫」 へ変更

- ・未希ライフ（入庫量の減少が顕著なため）

